

牛久：学校周辺に見る自然

第31号 ひたち野うしく小学校(みずべ公園)

2019年3月3日発行

＜ みずべ公園で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ①植物 ＞

牛久二小に続いて、1/28(月)にひたち野うしく小4年3,4組と、29(火)には1,2,5組とみずべ公園に冬の生きもの観察に行ってきました(28日はくもりで気温2.8℃、29日は晴れで気温6℃でしたが風が強くとずっと寒く感じました)。二小の校庭では見られなかったものを中心に、紹介していきます。



アラカシの、1つあたり約35枚のうろこを重ね着した冬芽。

すごい、重ね着タイプの冬芽ですね。これは、どんぐりをつくる木の仲間、アラカシの冬芽です。うろこが5列に並んでいて、1列に7枚くらい重なって見えますから、ざっと35枚はあることになりそうですね。このうろこは、枝が伸びるとどうなるのでしょうか？そして、これらの冬芽一つひとつから枝が伸びてくることになりそうですが、どれも同じように伸びるのでしょうか？目印をつけて、継続して調べてみるとおもしろいですよ。



そして、種子散布。綿毛でタネが風に乗って運ばれるヒメガマ、翼で風に運ばれるイヌシデ、ケヤキ、ひつつき虫のアメリカセンダングサなどが見られました。

【理科支援員：宮内】



タネが風に運ばれるヒメガマ(左上)、イヌシデ(右上)、ケヤキ(右下)、ひつつき虫のアメリカセンダングサ(左下)。